

第4回（仮称）ひたち若者かがやきプラン策定委員会 議事要旨

日 時 令和3年1月13日（水） 午後1時30分から3時45分まで

場 所 日立シビックセンター 集会室

出席者 委員12名（欠席3名：山形委員、中村委員、湯浅委員）

<会議概要>

1 開会

2 委員長挨拶

- 今回の議題は3件で、1件目は、グループインタビューの実施について、2件目がプランの名称について、3件目がプラン素案についてである。
- プラン名称については、「（仮称）」となっているため、どのような名称とするか意見を伺いたい。
- プラン素案については、これまでの意見や提案を基に事務局がまとめた。内容を確認していただき、意見を出してほしい。特に、取組イメージの部分を重点的に確認していただきたい。実行可能の有無ばかりを気にするのではなく、たくさんの意見を出してほしい。

3 議題

(1) グループインタビューの実施について

事務局から資料に基づき説明し、了承された。

(2) プランの名称について

事務局からプランの名称について確認した。

「（仮称）ひたち若者かがやきプラン」から（仮称）を削除した名称とするか、又は別の名称にするか確認した。

【委員長】

- 策定委員会の名称のため、馴染んでいる部分もあるが、別の名称の提案があれば意見を出してほしい。

【委員】

- 策定委員会が発足した時からこの名称で、「かがやく」という言葉がキーワードでもあるため、名称自体を否定するつもりはない。素案16ページで、「かがやく」の定義を「自分らしく生きる」としており、これ自体もちろん大切なことである。
- しかし、前回の会議で発言した「若者かがやく」ということと、「このまちに若者が残ったり、戻ったりすること」がつかない気がするため、この名称にした場合、間違ったとらえ方をされてしまうのではないかと思う。
- 極論だが、若者かがやいていないから、このまちに若者が残ったり、戻ったりしないのは若者のせいだ、というとらえ方になってしまわないかと思ってしまう。

- このまちに人が残らないことを若者のせいにしたわけではないので、もう少し大人の責任に比重を置いてもいいと思う。

【副委員長】

- 委員の意見にもあった文脈のような部分もそうだが、名称は、一番コンセプトになりうる、目につくところだと思う。これから行うグループワークで、理念や施策など具体的なイメージを各委員が持ったうえで、言葉を紡いだほうが「自分ごと」になると思うし、より広く共感を生む名称になるのではないかと思う。どういう言葉を紡げば腑に落ちるのか今は出てこないが、時間をもらい冷静に考えたい。

【委員長】

- 前回も「かがやく」の定義について議論し、一般的なかがやくという意味合いのほかに、「自分らしく生きること」という意味づけしたところである。
- 自分自身は「かがやく」という言葉にこだわりがあるわけではないが、委員の皆さんは、「かがやく」という言葉ではない方がいいのか。
- 先日、大学ゼミの3、4年生合計22名の女子に対し、プラン素案のプロセスや全体像の説明と名称について意見交換を行ったところ、「かがやき」の意味が、上昇や前進という意味だけではないことがわかれば、名称への違和感はない、むしろ分かりやすいとの意見があった。
- 委員の皆さんは、もう少し考えたいとのことだが、事務局はどうか。

【事務局】

- 次回会議では決定したいと思っているが、まだ少し時間があるので各委員から意見をいただきたい。意見は、抽象的ではなく、こういう理由のためこの名称にしたい、というように提案してほしい。その意見を基に、委員全員が納得した名称としたい。

【委員長】

- 事務局からあったように、検討する時間を取りたいと思う。
- ちなみに、学生に名称についても聞いてみたところ、違う名称にする場合は、「若者いきいきプラン」という案が出たが、「いきいき」は高齢者のようだとの意見もあった。他には、高齢者が「シルバー」なら、若者は「ゴールド」ということで、「若者ゴールドプラン」はどうかとか、「若者ダイヤモンドプラン」はどうかなどの意見があった。

(3) (仮称) ひたち若者かがやきプラン (素案) について

- ア 事務局から資料を基に説明した。
- イ 素案を確認して気付いたことを発言した。

【委員長】

- 事前配布された素案を確認されていると思うので、ワークショップを行う前に、気付いたことがあれば意見を出してほしい。素案には幅広い内容が盛り込まれているため、すべてを網羅した意見を出すことは難しいと思う。気になった部分があれば、そ

こを中心に意見を出してほしい。

【委員】

- アンケート結果で、特に 10 ページの「住みにくいと感ずる理由」の部分について、「交通の便が悪い」や「娯楽・レクリエーション施設整備が不十分である」という回答がダントツで多くなっているにもかかわらず、なぜそこをフォーカスしないのかという理由が抜けていると思った。
- このプランを手にした方は、日立市が出したものという認識になると思う。行政から受け取ったにもかかわらず「交通の便が悪い」というアンケート結果に対し、どこにも反映されていないのは、受け取る市民側が疑問に思うのではないか。
- ハード面ではなく、なぜソフト面にアプローチするのかという理由がないと不十分ではないか。

【事務局】

- 今回のプランは、総合計画のように全てを盛り込む計画ではなく、総合計画を基に「若者」というキーワードから取り組む施策を入れ込んだものである。そのため、「交通の便が悪い」や「娯楽・レクリエーション施設整備が不十分である」というアンケート結果から見えてくる課題に対する施策は、他の分野別計画に落とし込まれているため、若者のプランには入れ込んでいない。
- ご指摘のとおり、そのことがわかるような記載が無く、市民が疑問に思うこともあるため、プランへの記載を工夫したい。

【委員長】

- 委員が指摘した部分は、総合計画やその下に位置する各分野計画で扱っているため、今回のプランでは扱っていないということではあるが、素案には明文化されていない。確かに大事なことであるため、記載してあったほうが良いと思う。
- 学生からの意見でもう一つ報告したい。素案にある基本理念の 3 本の柱についての評判は良く、わかりやすく良いとの意見だったが、「挑戦と成長を支援する」と「失敗を笑わない」の主語が、行政と若者になっていることに対し、「日立の誇りと歴史を創る」の主語が若者のため、文の構成を見直したほうが良いのではないかと指摘があった。
- ほかに、ワンストップ窓口を設置するという部分について、設置することは良いと思うが、若者はあまり窓口に行かないため、SNSなどの窓口を充実させるべきではないかとの意見があった。
- もう一つ、様々な施策の名称に「若者」とついているが、若者のとらえ方が人によって違う。学生たちは自分が若者だと認識しているが、30 代ぐらいになると、自分は対象外だと思ってしまう方が多いのではないかと意見があった。

ウ A～Cの3つのグループにわかれ意見交換を行い、結果を各グループから発表した。

【Aグループ】リーダー：和田副委員長

メンバー：寺家委員、菊池（理）委員、松村委員

【Bグループ】リーダー：菅原委員

メンバー：高久委員、菊池（晃）委員

【Cグループ】リーダー：志摩委員

メンバー：鈴木委員、天坂委員、大森委員

◆【Aグループ】の意見発表

【委員】

- 「かがやき」の定義が、かがやかせるだけであれば、素案に記載された課題でいいと思うが、目的に、「若者の定住を促進し、人口減少を和らげ」と記載されているので、ここに焦点を当てた課題、理念、体系にすべきなのではないか。
- 実現するための課題が、人口減少につながるようになっておかないと、挑戦したが人口が増えなということでは寂しい。
- 課題については、高校・大学を卒業して就職や、結婚、妊娠などのタイミングで市外に転出することが多いと思うが、そのライフイベントごとの不安に対する課題は、記載の課題がすべてに当てはまってくると思う。課題の対策としては、世代によって異なると思うので、世代ごとに整理した方が、解決につながるのではないかと思う。
- 例えば、勤め先がないという課題に対し、すぐに解決できないとしても、将来的に解決策が見つかることもあると思うので、課題から無くさず記載しておいてほしいと思う。

【委員】

- 取組みイメージの中に多く出てくるコンシェルジュについて掘り下げてみたのだが、そもそもコンシェルジュを利用するのかという意見があった。自分としては、行政の使い方を学校では教えてくれないため、自分が行政と関りをもたなくてはならないとき、相談できる窓口があったほうがいいと思う。
- ただし、コンシェルジュになる人は、行政に精通した方でないと務まらないイメージがある。実際に多数のコンシェルジュを常駐させることは難しいと思うので、まずは市役所にコンシェルジュを常駐させ、数年後から別の拠点に週に1回は居るようにすれば運営しやすいのではないか。
- プランが5年計画であるため、5年後にコンシェルジュの人材を揃え、市内のどの拠点にもいるような形を整えることでもいいのではないかと思う。
- 行政を利用する際に「困った経験がない」ということも、そのまちに住みたい理由の一つになると思う。自分はいろんな場所に在住した経験があるが、日立市に来て良

かったなと思う点は、市役所や支所が土日開庁しており、基本的なことは対応してもらえることである。行政が使いやすいということは、定住の一つの長所だと思う。

【副委員長】

- 前回から年末年始を挟んだが、その間も夜間を含めて事務局やコアメンバーとSNS等でやり取りをして思ったことがある。自分が感動したこととして、地元に戻り、こういう場でシリアスに話し合っているが、これが価値となっている。
- 施策などを決めていく中で、全体的なストーリー設定がないと駄目とか、課題に対してどのようにアクションするかなど、いろいろあると思うが、時間がないからできなかったということにはしたくないと思っている。
- 集まっている委員の専門領域やインプットがあると思うので、それを事務局や委員長、自分に連絡してもらえれば、それを引き受けて落とし込んでいく。この機会に熱量をあげて進めていきたいというのがお願いである。

◆【Bグループ】の発表

【委員】

- 若者がかがやくという部分は、学生と起業者という視点で検討した。学生については、挑戦という言葉があったが、挑戦するにも準備、例えば、スキルアップの時間などが必要である。
- 発信について、紙媒体での発信には限界があるため、webやSNSに特化したほうがいいのではないかと。
- 自分自身としては、人それぞれ考え方はあると思うが、若者は挑戦しないのではなく、若者は鏡だと思っており、挑戦したいと思っているが、ロールモデルが少ないという現状とその部分のマッチングが課題だと感じた。
- 基本理念については、まだわかりにくい部分があると思う。行政の言葉遣いと、自分たちが誰かに伝えるときの言葉遣いに相違があるため、整理が必要だと思う。
- 「日立の誇りと歴史を創る」の部分について、いいと思っていたが、よく考えると自分ごとの話のはずが、なぜ「日立」が出てきたのかと感じた。自分という主語がもっとあってもいいのではないかと思う。
- 「かがやく」については、人それぞれ受ける印象が違っており、自分たちがこの内容を発信する場合、ロールモデルやイメージしやすいものを提示して伝えることが必要だと思う。
- 各施策については、自治体の公式SNSなどで、伝えることに特化したものがあったもいいと思う。また、学生への施策として、企業版の周遊イベントなど、行政とリンクしたものがあってもいいと思った。
- 個別施策には、連動したストーリー性がないと関わる理由が見つけられないと思う。

【委員】

- 行政側が情報発信する場合、紙媒体を活用することが多いかと思うが、紙媒体の情報を手にすることは少ない。また、もらったとしても見ないことが多いため、若者に特化するのであれば、SNSやwebに重きを置き、拡散性を重視したほうが良いのではないか。
- SNSの公式アカウントがあれば、コミュニティにもなり、顔がわかり、人がわかれば広がり、自分ごとになる。そうなることが大事で、SNSに特化し、紙媒体を作らないという選択肢もありなのではないか。
- SNSというのは、忖度してしまう内容のときもあるので、もっとオープンに情報発信できる面白さが非常に大事だと思う。「公式SNSの中の人」がどういう人であるかがとても大事である。

【委員】

- 挑戦について、どうしてもスキルアップの時間や準備が足りず、他人の挑戦の足跡を見る機会があまりないことから、基本理念は「挑戦の足跡がかがやく」という言葉はどうかと思った。
- 挑戦してきた人たちの歴史を見ることができるとして、早い段階、例えば大学1年生からフォーカスを当てて考えることができるので、就活なども日立市を中心に行うようになるのではないかと思う。

◆【Cグループ】の意見発表

【委員】

- 素案全体としては、これまでの委員の意見がまとめられており、よくできているというのが感想である。
- アンケートの結果である、交通の便や娯楽施設の有無などは選択肢に入れざるを得ない部分もあると思うが、ハード面を除いた施策として何が足りないのかを見る意味で、ハードとソフトを分けて調査してもよかったと思う。
- アンケートの中でカフェを選択した方が一番多いが、あったらいいなという軽い気持ちで回答できる選択肢になっていると思う。1番多い回答だったからと言って、カフェを作ることが我々の目的ではなく、カフェのようなものもあつたうえで、何ができるのかということが問われているのだと思う。例えば、そういった場所にコンシェルジュを常駐させることも考として出てくるのだと思う。
- ワークショップでは、フリースペースが日立市には少なく、大学生が勉強できる場所を探してさまよっているという話があり、フリーで何をやってもいいという場所が少ないという意見があつた。そのような学生の声も聞いてもらえるといいと思う。
- 情報発信について、SNSを使ってという文言が入っているが、若者が何かのサポートのために活用するのか、それとも大人や行政が、若者とコンタクトをとるために

活用するのか、この部分については、研究が必要だと思う。

- 基本方針1に紐づく施策をグルーピングしているが、基本方針1に記載されている基本施策でも、基本方針2に紐づくものもあると思う。また、個別施策がたくさん上がっているので、本当にできるのだろうかという心配はある。

【委員】

- コンシュルジュについて、どのような人や場所を選ぶのかまだイメージ段階であり、これからの検討課題となるが難しいと思った。
- コンシュルジュを利用したい方が、わざわざその場所に行くことは難しいと感じており、まずは電話やSNSサイトなどでの対応をしてくれるコンシュルジュが必要だと思う。
- 若者のアイデアを実践できる組織作りの部分で、若者かがやき会議発足とあるが、あらゆる方面から人を集めて何か作りましょうというような組織なのか、例えば空き家問題を解決したいというような課題解決のために人を集めて作る組織なのか、その辺の部分の検討も必要だと思う。

【委員】

- 基本方針1の中の各コミュニティとの連携の部分に違和感があり、「若者は、地域コミュニティを含めた多様なコミュニティとのつながりを求めているが、つながれない現状があることから」という記載があるが、どちらかというと、多くの方がコミュニティを求めているから、このような現状になっているのではないかと感じた。
- また、取組のイメージについては、コミュニティと若者の接点を作るため参画機会を創出するとなっているが、若者かがやき会議に参加する方だけが参画して盛り上がるのではなく、若者かがやき会議を通して若者を盛り上げて、地域全体で盛り上がるような施策になればいいと思う。

【委員】

- 基本方針5の施策にある若者による情報発信の仕組みづくりの部分で、SNSという言葉が多く出てくるが、そこは、仕組みづくりというよりも、むしろコンテンツ作りのほうが大事だと思う。SNSは、ただアカウントを作り運用すれば、届けたい人に届くわけではなく、誰にどんなコンテンツを届けたいのかというところを考えなくてはならないと思う。
- 例えば日立市に美しい海があるということを届けるためにはどのようなSNSを使えばいいのか、そういう部分で思考の順番が逆で、SNSによる情報発信の仕組みだけ作っても、コンテンツがなければおそらく誰にも届かないし、拡散もしないというような結論になってしまう。SNSを活用するのであれば、仕組みよりもむしろコンテンツとして発信する中身を充実させることから始めなくてはいい。

【委員長】

- 各グループのワークショップに参加し、発表を聞いて思ったことは、このプランは「若者よ、頑張りなさい」というものではなく、日立の若者が自分らしく生きていけるように、行政が中心となって応援するというプランとなるような視点で作っていかなくてはいけないのだと思う。
- そういった視点で考えたときに、Aグループのワークショップ中に、いわゆる学級委員長や生徒会長のような人たちだけがかがやくことを応援するようなプランに見えなくもないという話題が出ていた。プランに「かがやき」という言葉が入ると、そういうとらえ方をされてしまうことも考えられるので、名称を見直すことの検討も必要なのかもしれない。
- 自分としては、決して、特定の人たちだけがかがやくプランではないということを期待しており、先ほど副委員長からの発表にもあったように、皆さんとプランを熱く作り上げていく中で、学級委員長のような人だけがかがやくプランではなく、平均点の方たちや、あるいはそんなに頑張ろう、かがやこうと思っていないような若者も、しっかりこのプランで自分らしく生きていけるようにしたいとあらためて感じた。
- かがやいている、実際に頑張っている、挑戦しまくっているような人たちだけを支えるようなプランではないような施策を、どんどん入れていきたい。
- 挑戦という言葉が、上昇していく人のイメージに思われるが、むしろ、社会的にちょっとならずいたという方が、階段を一段上るだけでもそれが挑戦だととらえていいのではないか。
- 今回のワークショップは、内容が多く取組みイメージのところまでいかなかったが、そこにつながるような示唆はたくさん出てきたと思う。
- 名称については、次回の会議まで待っていると取組みイメージの検討を進めることが出来なくなるので、ここ2、3日くらいで名称を考えて、事務局にメールなどで連絡するという方法としたいがどうか。

【事務局】

- 委員の皆さんの意見を基に、基本方針、基本施策、取組イメージを素案に落とし込んだが、入れ込みたいことが盛りだくさんで整理するのにかなり悩んだというのが正直なところだ。
- パブリックコメントが1月25日（月）から開始することもあり、本日の会議で委員の皆さんに意見交換していただいた。
- パブリックコメントでは、様々な年代の方が見てくださるため、プラン策定後の具体的な取組イメージがしやすいように、（仮称）の名称をつくり記載した。また、示した取組が実現可能かどうかという心配もあるが、まずはこれまでの皆さんからの意見を基に素案に落とし込んだ。

- コンシェルジュについては、若者が行政とつながりやすい、わかりやすい窓口があったほうが良いという意見から、取組イメージに盛り込んだものである。具体的な仕組みについては、引き続き検討を重ねる必要があるため、意見をいただけるとありがたい。
- SNSを活用した情報発信が大事という意見も多かったことから、基本方針5としたが、発信ばかりの内容となってしまった。委員の意見のとおり、コンテンツが大事であることから、そこも含めた表現に変更したい。
- 再度素案全体を確認いただき、わかり易い表現とすることや具体的な取組に対する意見を出してほしい。

【委員長】

- 委員の皆さんも忙しいとは思いますが、施策内容やプラン名称について、1月18日(月)までに事務局にメールなどで提出をお願いしたい。
- ゼロから作り上げており、皆さんの力がないと出来上がらないため、頑張ってくださいようお願いしたい。
- 自分自身は、様々な市町村や県の委員などを務めているが、ここまで丁寧に意見を聞いて作り込むことは多くはないので、委員の皆さんも大変だとは思いますが、協力をお願いしたい。

【事務局】

- 今回提示した素案は、文字が多く行政計画を策定する際によく使われる形式だが、本編は、若い方が手に取って見てもらえるような冊子にしたいと考えている。
- 雑誌のようなデザインやでもよいので、参考になりそうなものを提案してほしい。また、デザインや絵を描くことができる方は、イメージで作っていただきたい。
- 委員の皆さんそれぞれに考えていただき、次回会議に持ち寄ってほしい。

4 事務連絡

- (1) 次回の日程等について

今回は2月17日(水)午後から日立シビックセンターで開催する。

5 閉 会

以 上